

製本のススメ

Vol. 128

記録的な暖冬だと言われましたが、なんと東京は大雪が降りましたね。雪も降らないと困る仕事の方々は沢山いらっしゃるので、文句は言えませんが それにしても東京は雪に弱すぎじゃないでしょうか？

今回は**本のサイズと紙の厚み**の話し

皆さんは普段使っている用紙の厚みを知っていますか？連量は(紙の発注もあるので)よくわかっていると思いますが0.1ミリ？0.12ミリ？意外と知らない方が多いのです。**製本では、連量よりも厚みが優先。**束見本を作る際には、必ず本番と同じ用紙で作らないとなりません。例えばコート紙の135kと上質の135kでは、用紙の厚みは違いますね、すると背幅が合わないというようなトラブルが起きてきます。また印刷をするとインクの厚みが増えるため、背幅がずれてくるというトラブルも起こります。

さて意外に見落としがちなのが、**小さいサイズ(A6やB7など)です。**B5やA4などでは、用紙が大きいので、その重みで紙の曲り具合も大きく、開きやすさを感じられると思いますが、サイズが小さいと用紙の重さも軽く、**手に持って開いた時の感触が硬く感じられます。**実際に紙の曲がる角度も小さくなりますので、コンパクトな冊子の場合で厚みがあるものは、のど奥まで開きにくいという感触が残るため、**お客様達はノド奥まで無理に開こうとして、本が壊れるという事態になります。**手帳や辞書など糸綴りするのには丈夫さ重視という点に加え、用紙のしなやかさを補助する役割もあるのです。**特にページ数の多いコンパクトな冊子では注意が必要です。**いつも使う用紙だからという油断が、思わぬトラブルにつながってしまいます。

紙目はもちろんですが、用紙の厚みも企画段階では考慮するべきですね、お客様との打ち合わせには、ぜひとも加工段階までのプランを組んでおきましょう。

製本仕様や用紙の種類にもよりますが、コンパクトな冊子の束厚目安は12ミリ程度とされたほうがよいでしょう。それ以上の束厚は、十分に注意し企画をたてて下さい。



Tea break

年々加工会社が減っているせいなのか、遠くの印刷会社からも依頼が入ってきます。しかも1月下旬あたりから…さすがに1月に言われてしまうと断れません。加えて手のかかる作業も多く発生しますので、既に3月納期 4月納期の加工を予定の方は納期だけでも製本会社に伝えておきましょう。年度末は「日頃のご愛顧月間！」です毎月仕事を下さるお客様を1番に考えたい！加工の確保は先手必勝！早めに抑えておきましょう♪